



かわぞこ なか むし なん  
川底のどろの中に、カナブンみたいな虫がいたけど、何なの

どろといっしょならゲンゴロウかガムシ

カブトムシやカナブンなどと同じ仲間おな なかま すいちゅう せいかつで、水中すいちゅうで生活するものには、ゲンゴロウとガムシせいかつがいます。ミズスマシも、姿すがたはよく似ていますが、おもに水面すいめんで活動し、敵かたどりに追われたときときぐらいしか、水中すいちゅうにはもぐりません。

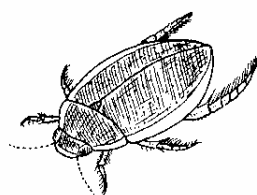
ゲンゴロウもガムシも、夜活動よるかつどうするので、昼間ひるまは水底みずそこでじっとしていることが多く、川底かわぞこのどろをすくうと、どろといっしょに、網あみに入はいってきやすいのです。

ゲンゴロウとガムシのちがい

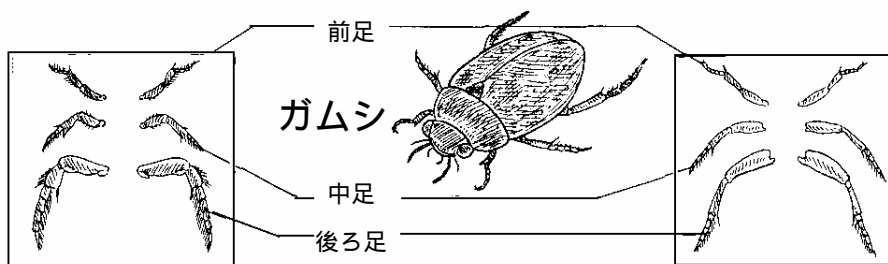
ゲンゴロウとガムシは、頭あたまや体からだの形かたちがちがっていて、ゲンゴロウは、頭あたまやかたい羽はねの腹側はらがわに近いふちに、黄色きいろの帯おびがあるものが多いといえます。

ゲンゴロウの前足まえあしや中足なかあしは短いけれど、後ろ足みじかは長く、どの足あしにも毛けが生はえています。後ろ足うしろあしのふさふさした毛けは、泳およいでいるとき、オールみずのように水みずをかき、体からだが前まえに進すすみやすくなっています。ゲンゴロウは、小さいこん虫ちゅうや、弱よわった魚さかなの肉にくなどを食たべています。

ガムシは、ゲンゴロウより足あしは長いけれど、足あしの毛けは少すくなく、泳およぐのにあまり便利べんりな足あしはありません。泳およぎも、じょうずではありません。ガムシは、幼虫時代ようちゅうじだいは、小さいこん虫ちゅうなどを食たべていますが、成虫せいちゅうになると水草みずくさなどを食たべています。(監修・中山 周平)



ゲンゴロウ



ガムシ

